

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2016/01 前期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集1 大学入試センター試験 直前の注意◆

いよいよ大学入試センター試験です。裏に氏名を書いた上で、受験票等に写真は貼ってあるでしょうか。配布されている「受験上の注意」という冊子を受験票・写真票等とともに、当日持参しなければならないことを、覚えているでしょうか。

くれぐれも、受験上の注意に書かれていることは、「知らなかった」「読んでいなかった」は通用しません。すべて自己の責任となりますから、十分注意して下さい。

今年度も試験会場は「教育大学釧路校」と「公立大」の2カ所に分かれます。自分の受験票をよく確認してください。また「問い合わせ大学」も受験生によって異なりますので注意してください。詳しくは、冬休み前に配布した進路通信を参照して下さい。

1 【基本中の基本です】問題冊子の注意事項や試験監督者の話に注意する

あたりまえのことですが、意外とあたりまえのことができずに、失敗する人もいます。注意をしてください。選択問題が今までなかった科目で、今年から選択問題が導入されるなど、傾向が変わる場合もあります。必ず、問題冊子の表紙の注意事項には目を通しましょう。

2 科目のマークミスは致命的に

地歴公民や理科等において、科目名（日本史B・化学等）をマークし忘れるとどうなるか、0点になるだけではありません。国公立大などでは、指定した科目を受けていなければ受験することもできなくなります。つまり、0点でも受験できるわけではなく、受験することもできなくなります。

これだけ言っているのですから、きちんと確認を行ってください。

3 地歴・公民の問題冊子

地歴と公民の問題冊子は、パッケージ化された状態で配布されると思いますが、自分がその時間に解答しない方の問題冊子は、机上に置くように指示されると思います。いつものクセで机の中等にいれることは、おそらく許されませんので、注意して下さい。これも試験監督者の注意事項に耳を傾けていれば、きちんとわかることです。

4 数学について 問題の解き間違いに注意

例えば、数学①の問題冊子は「数学Ⅰ・数学ⅠA」が一冊になって渡される予定です。「数学ⅠA」を解きたいのに、間違って「数学Ⅰ」を解く人がいます。そんな間違えるはずはないと、思うでしょうが、2年に1人くらいの割合で、実際います。「人ごと」ではないのです。十分気をつけて、確認してください。実際、模擬試験で間違えた人もいましたね。

5 マークシートの段ズレに注意

これは、改めて言うまでもありません。マークシートを見直す時間をとると安心です。この見直しという作業がもたらす安心感は、はかりしれません。時間に追われていたとしても、見直しを少しでもしましょう。

さて、段ズレは、「適切なものを2つ選びなさい。ただし解答の順序は問わない。」こういう問題において、正しいものを1つしか解答しない場合、ここから段ズレが発生したりします。また、途中の問題をとばして解答した場合起こる可能性があります。（だから問題をとばすなど言っているではありません。）気をつける、そして見直す、大事なことです。

6 自己採点出来る状態にする

当たり前ですが、自己採点によって、国公立大学等の出願校を考えます。自己採点できるように、問題冊子には何を解答したかわかるように残しておくこと。当てずっぽうで答えた問題も、どれにマークしたかわかるようにしておきましょう。どれにマークしたかわからない問題は、自己採点する時は、不正解として扱うしかありません。どれにマークしたか、記録をきちんと残すこと。当てずっぽうにマークしたものの記録をとっていない人が時々いますから、注意して下さい。

7 試験が終わる度に解答あわせをする人がいますが・・・初日の解答も気にしない

この問題どうだった？これは何を解答した？と友人と話すのは、あまりおすすめできません。それより、次の試験時間の準備に全力を傾けるべきです。友人と同じ答えを選んだとしても、正解かどうかわかりません。自分の気持ちを整えたり、勉強したりする時間に使いましょう。また、センター初日が終わるとほっとしますし、センター試験初日の正解が気になるのですが、ネット情報に翻弄され、それによって、次の日の勉強をしない人もいます。心からもったいないことだと思います。2日目の勉強をしっかりしましょう。気になっても、気にしても、終わった科目の点数が伸びるわけではありません。次の日の試験は、前日の勉強によって伸びる可能性があります。「理屈ではわかっているのですが・・・」と言ってネットを見続けた生徒と、きちんと次の日の勉強をした生徒の運命の違いを見てきていますから、是非、次の日の勉強をしてください。

8 入試は合計点勝負であることを絶対に忘れない

ある試験科目について、まったく手応えがなく、「失敗した」という思いにかられることもあるかもしれません。落ち込む人もいるかもしれません。全体の平均点がどうなるかは、わかりませんし、合計点勝負が入試です。そこで、あせらず、次の科目の試験に集中できるかどうか勝負の分かれ目です。国語の全国平均が100点を下回った年が、今までで1度あったのですが、その年、国語が出来なかったという気持ちを整理することができず、そのあとに実施された英語の筆記試験に集中することができず、英語の筆記も点数がとれず、またそれを気にしてしまって、その後の英語のリスニングも聞き取れず……。こんなふうに分身の受験を振り返っていた先輩もいます。

すべての科目で自分の思い通りなることは、少ないのです。失敗したと思っても、どこにチャンスが転がっているかわからないので、焦らず、次の科目に集中し、頑張ろう。

9 傾向が変わっても焦らない

書いてある通りです。センター試験廃止後をにらんで、作問の仕方が変わったりすることもあるかもしれません。過去問は所詮過去問です。今年出された問題に、全力で取り組むだけです。

10 現役生は最後の最後まで伸びる→ゆえに、最後まで粘れ

最後の最後まで、いろいろな意味で粘ってほしいですね。当日までの勉強の粘り（まだ少し時間はある）、試験時間中の粘り……。現役生は特に粘りが大切です。

◆特集2 大学入試センター試験 終了後をイメージしていますか◆

1 1月18日（月）自己採点日

いつもと同様に制服着用で登校してください。「学校の自己採点用紙」「駿台・ベネッセ」「河合塾」の3種類の用紙に自己採点の結果を記入します。模範解答も学校で用意しますので、事前に自己採点してくる必要はありません。学校で自己採点をして、合計点等を記入していきます。終了次第、放課となります。11:00ごろには放課となっています。この日はとにかく、なるべく欠席しないようにして下さい。放課後自習室等は使えますが、担任の先生との面談はできないかもしれません。

① 持ち物
・問題冊子・筆記用具（鉛筆・ボールペン両方必要です）・電卓（携帯等は使えません）

② 注意
 ・自己採点をする、担任の先生等と話したい等要望も出てくると思いますが、まず、担任の先生も副担任の先生も進路指導の先生も、優先して行わねばならない、自己採点の集計等の業務があります。この日は相談できないか、遅い時間にならないと相談できないと思っておいてください。

2 センター終了後にネットに翻弄されない

センター試験2日目が終わると、少しほっとした気持ちになるでしょう。その日は、「疲れを取るために早く寝る」のならばいいのですが、またはネットに翻弄される人がいます。こんな時代ですから、ネットを見るとさまざまなのが、無責任に書かれています。そんなものを見て何の得にもなりません。早く寝るか、次の勉強をしましょう。以前担任をもっていたクラスでも、自分でもしつこいくらい「ネットなどを見なくていい。早く寝るか、勉強するか」の2択だ」と言い続けていたのですが、一部の生徒が、ネットに翻弄されたことを後で知り、がっかりしました。その生徒は第1志望にも、第2志望にも不合格でした。ひと区切りついたというだけで、受験は終わっていないのです。むしろ、私大に必要な科目や、国公立の個別試験に向けて必要な科目を、思いっきり勉強できる好機到来です。

3 センター試験終了後の勉強のイメージを持とう

センター試験終了後の勉強のイメージをもっていますか。何となく、という人が多いのではないのでしょうか。まず、センター終了後の予定を見てみましょう。

1月18日（月）	センター試験自己採点
1月23日（土）・24日（日）	センター試験事後指導（出願校をきめていく） ※願書は手に入れてあるだろうか？
2月3日（水）	国公立大学出願〆切（前期・中期・後期） ※独立日程等学校によって異なることもあるので注意 ※必着の学校が多いので注意
2月25日（木）・26日（金）	国公立大学前期日程 試験
3月8日（火）	中期日程 試験
3月12日（土）・13日（日）	後期日程 試験

センター試験終了後、国公立大学前期日程まで、数週間しかありません。ところが、一番無駄に過ごす人が多いのが、センター試験直後の1週間です。センター試験の自己採点結果が知りたいとって、またネットの「とりこ」になる人、出願できるかどうかわからないので、勉強に本腰が入れられない人、志望校が決まるまで勉強に集中できないと言い訳をする人、様々ですが、共通点は、「勉強していない」ということです。教員は、担任の先生を中心に23日、24日の面談に向けて、いろいろなことを調べたり、確認したりします。こちらが忙しい時期だからこそ、生徒のみなさんは、落ち着いて、思いっきり勉強してほしいのです。志望校が決まるまでは、学校に残ってたらだと友人とおしゃべりに興じる人も出てきかねません。うちの人は、学校で残っていたということで、頑張って勉強していると勘違いします。少し友人の意見を聞いてみたりするのは、悪いことではありませんが、「だったら」は困ります。

よく考えてみてください。センター試験後前期日程までの日数の少なさは、前述の通りです。ここで気を抜いてしまえば元も子もないのです。ほっとする気持ちは、わからなくはないのですが、全国の現役生は、この1週間を無駄にしている人が多いと思います。この1週間は逆に考えると追いつくチャンスでもあります。良い判定が出ている人にとっては、逆転負けしないように、相手との距離を引き離すチャンスでもあります。浪人生は、昨年度の悔しさを胸に秘めていますから、手を抜かず、この時期、徹底的に勉強しています。現役生は何となくのんびりしてしまいがちです。私大の勉強でも良いし、どこを受験するにしても必要な科目でも良いし、勉強することはたくさんあるはずですよ。

今年は、センター試験終了後の1週間を無駄にしないことを、肝に銘じて下さい。そしてそのためにも、1月18日（月）に取り組む事柄を少し下書き出してみして下さい。書くだけでも意識化できて、行動に移しやすくなると思います。

★1月18日（月）に取り組むこと

【おまけ：再掲】センター試験にまつわるQ&A

Q 試験当日、不慮の事故等にあったら？

A 落ち着いて次のように対応します。

- ①「受験票」に書かれている「問い合わせ大学」に連絡して状況を伝えます。
- ②担任の先生に状況を伝えます。

★「追試験」を受けるためには、「医師の診断書」や「事故等の証明書」などを持参して、「追試験の申請」を直接「問い合わせ大学」においてしなければなりません。決められた時間内に申請ができなければ、一切追試験を受験することはできません。

★万が一、受験生本人が「追試験の申請」ができない場合、代理人（保護者等）が行うことになるのですが、その際、代理人が受験番号・受験科目等を知っておく必要があります。事前に受験票のコピーを保護者に預けておくと安心です。

☆1日目の追試験申請を2日目に行うことなどはできません。

☆「追試験」は言うまでもなく、安易に利用できるものではありません。利用しなくて済むように最大限注意してください。

センター試験当日の忘れ物No.1は、「時計」。注意を。消しゴムのカスをふるい落とすことを忘れずに。粘って、粘ってがんばれ。